

ボートの鉄人

スマホマクールで展開している「ボートの鉄人」。ボートに関するひとつの用語を徹底的に深掘りする解説&攻略コンテンツだ。初心者にはわかりやすく、上級者にも読み応えある記事を提供している。しかもひとつの記事において、新情報を続々追加していく、これまでのWEB記事にはない手法でアップデートを重ねていく。ぜひ辞書的に繰り返し検索いただきたい。その本誌版第1回のテーマは、7月22日から27日まで「SG第30回オーシャンカップ」が開催される「ボートレース徳山の特徴」だ。

鉄人テーマ

ボートレース徳山の特徴



2年連続全国トップのイン最強水面

ボートレース徳山は、朝の8時台に1Rが始まるモーニングレースを開催している。1号艇にA級レーサーを配置する「シード番組」（企画レース）が多く、3連単の払戻金が高い本命決着が目立つ傾向にある。

こうした企画レースの影響もあり、2024年の1コース1着率は63・2%と全国平均の55・1%を大きく上回り、23年から2年連続で全国トップの「イン最強水面」となっている。

徳山は瀬戸内海の笠戸湾奥に位置する海水のレース場である。コース幅は広く、1マークのホーム側も45mと余裕があるため、インの選手はターンマークに対して十分な幅を取ってターンすることが出来る。一方、ダッシュ勢は、1マークまでの距離が遠い。このようなコース特性が、1コース有利の状況を生み出している。

また、レースコース西側の太華山が向かい風を遮るため、基本的には追い風が多い。潮位差は最大3・5mと大きく、満潮時は水位が上がって水面が荒れ、ターンが難しくなる。

番組もレース傾向も本命寄り

3連単3桁配当が全体の25・3%を占める。また追い風によってまくりが流れやすく、逃げて差す①②決着が23・8%も発生している。

1〜4Rの企画レースでは、1

コース1着率がいずれも70%を超える。特に1Rはその傾向が顕著で、イン1着率は77・3%。3連単①②③決着は12・8%、次いで①③②④が8・7%と、この2点で20%以上の出現率を誇る。

波乱が起きやすいのは満潮の海風が吹く時。斜め追い風によりスタートが難しくなり、隊形がばらつくと外からの攻撃も飛んでくる。また道中も水面がポチャつき、逆転もしばしば起きる。

季節別攻略のポイント

〈春〉「乗りやすい」というコメントに注目

春の大潮は潮位差が大きく、満潮時は水面が悪くなる。1日に6本も万舟が飛び出した日もあり、乗りやすさ重視の調整が正解。

〈夏〉展示で見極めたい1号艇の動き

夏場はモーターパワーに差が出る時期。1号艇でも低調機の選手は過信禁物。また、沖からの横風が吹く時は、スタートが難しくなり、波乱のトリガーに。

〈秋〉潮回りでレース傾向が変化

春同様、潮位差が大きく、3mを超えることも。スタートする時の風景も変わり、勘の調整が必要になる。干潮時なら、外からの一発も期待が持てるので、展示タイムを活用したい。

〈冬〉イン有利も強風要注意

気温が下がりモーターパワーが上がるインがさらに有利になる。太華山が北風を遮るが、それ

(24/1/1 ~ 12/31)

徳山 コース別成績／決まり手

進入	1着率	2着率	3着率	逃げ	まくり	まくり差し	差し	抜き
1	63.2%	16.8%	6.9%	60.8%	—	—	—	2.4%
2	14.6%	28.9%	19.3%	—	2.6%	—	10.8%	1.2%
3	8.7%	22.7%	22.5%	—	2.7%	3.0%	1.5%	1.4%
4	8.5%	16.6%	20.8%	—	3.9%	1.9%	1.8%	0.6%
5	4.0%	10.0%	18.4%	—	0.6%	2.2%	0.3%	0.7%
6	0.9%	5.0%	12.2%	—	0.1%	0.5%	0.2%	0.2%

を越えて強風が吹きつける日もある。5m以上吹くと波乱一考。必ず風向・風速を確認しよう。

【土屋幸宏の思い出】

「徳山はインが有利」を実感

のどかな雰囲気のあるレース場だが、インがとても強い。5日節の成績が「666556」で迎えた最終日のこと。1回走りの1号艇も、2〜6号艇まで勝率5点以上の選手がズラリ。それでもスタートを決めたら、なんとか逃げられた。3連単①②③④は8360円。「ボートレースは1コースが有利」、まさにこのことだと実感した。

(マンスリーBOATRACE

編集長・土屋幸宏)